

4 安全指導と安全管理

運動部活動は学校において計画する教育活動で、スポーツ等に興味と関心をもつ同好者が運動部を組織し、より高い水準の技能や記録に挑戦する中で、スポーツ等の楽しさや喜びを味わい、豊かな学校生活を経験する活動である。また、この活動は、生涯にわたって親しむことのできるスポーツ等を見いだす格好の機会であるとともに、活動の時間数、計画性、継続性から考えると、体力の向上や健康の増進にも極めて効果的な活動と言える。

したがって、生徒が運動部活動に積極的に参加できるように配慮することが大切であるが、運動部活動中の事故も多数報告されており、運動部活動の指導においては、生徒の能力等に応じた技能や記録の向上を目指すことの大切さを指導する必要がある。

また、運動部活動は、主として放課後に行われ、特に希望する同好の生徒によって行われる活動であり、生徒の自主性を尊重する必要があることから、勝つことのみを目指した活動や生徒の能力以上の過度な活動にならないよう指導に配慮する必要がある。

(1) 指導計画作成上の基本的な配慮事項

- 生徒の個性の尊重と柔軟な運営を図る。
- 生徒のバランスのとれた生活や成長のための適切な休養日と練習時間を設定する。
- 必要に応じて外部指導者を活用するなどして、家庭や地域社会とともに生徒を育成する視点をもつ。
- 生徒の能力・適性、興味・関心等に応じつつ、適切な活動が行われるよう配慮して指導する。
- 外部指導者による指導においても、日頃から指導に当たっている顧問が主体的に部活動の運営に関わり、安全対策を充実させる。

(2) 指導の要点

- 学校教育活動の一環としての部活動であるという認識に立ち、教職員全体の共通理解のもと、指導体制の確立と指導計画の作成が重要となる。（保護者からの情報提供にも努める）
- 「疲労」などからくる「気の緩み」が傷害の主な原因となることから、練習が過重とならないよう適切な休養を確保し、健康管理に注意する。
- 運動部活動のねらい（目標）をしっかりと理解させ、「学年や学級を越えた望ましい人間関係づくり」の大切さについても理解させる。
- 他の運動部顧問との連絡を密にとり、指導者不在や指導者単独での指導は極力避け、相互に連携しながら、安全対策に対応する。
- 教科、特別活動、運動部活動等の指導を通じ、生徒が安全に活動できる知識や技能とともに、生徒に危険を予測し、回避する力を身に付けさせる。

(3) 健康管理

生徒の健康状態の把握が、事故を未然に防ぐ上で重要となる。日頃から、学級担任や養護教諭等と連携を図りながら、生徒の健康状態を把握しておくことが大切である。

- 定期健康診断をもとに、入学前の本人の健康状態についても情報を入手するよう努める。
- 活動前、活動中、活動後の健康観察を怠らず、また、生徒自身にも自らの健康状態を確認し、身体の変調を速やかに報告できるような体制づくりに努める。
- 活動中の気象状況（気温、湿度、日照、光化学スモッグなど）やその急激な変化にも適切に対応できるようにしておく。

(4) 施設・用具

施設・用具の維持管理及び安全点検は、日頃の活動の一部として習慣づけておくことが大切である。

- 活動場所、使用用具の安全点検は、毎回実施する。
- 用具・器具の保管・固定をしっかりと行い、用具の転倒や破損による事故が起きないように注意する。